

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月13 日

## 【評価実施概要】

|       |   |       |            |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 0170201099                              |       |            |
| 法人名   | 有限会社 ハッピーライフ                            |       |            |
| 事業所名  | グループホーム チロリン村                           |       |            |
| 所在地   | 札幌市北区屯田5条12丁目12-10<br>(電話) 011-774-3993 |       |            |
| 評価機関名 | (有)ふるさとネットサービス                          |       |            |
| 所在地   | 札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階                  |       |            |
| 訪問調査日 | 平成19年7月9日                               | 評価確定日 | 平成19年7月27日 |

【情報提供票より】 (19年6月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |                 |              |          |
|-------|-----------------|--------------|----------|
| 開設年月日 | 昭和・平成14年11月20 日 |              |          |
| ユニット数 | ユニット            | 利用定員数計       | 9 人      |
| 職員数   | 人               | 常勤6人, 非常勤3人, | 常勤換算6.9人 |

### (2) 建物概要

|      |              |     |     |
|------|--------------|-----|-----|
| 建物構造 | 木造防火サディング 造り |     |     |
|      | 2階建ての        | 1~2 | 階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |            |                |           |
|---------------------|------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額)            | 40,000 円   | その他の経費(月額)     | 25,000 円  |
| 敷金                  | 有( ) 無( )  |                |           |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( ) 無( )  | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無     |
| 食材料費                | 朝食         | 300 円          | 昼食 300 円  |
|                     | 夕食         | 400 円          | おやつ 100 円 |
|                     | または1日当たり 円 |                |           |

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

|       |          |        |        |
|-------|----------|--------|--------|
| 利用者人数 | 名        | 男性 2名  | 女性 7名  |
| 要介護1  | 1        | 要介護2   | 3      |
| 要介護3  | 3        | 要介護4   | 1      |
| 要介護5  | 1        | 要支援2   | 0      |
| 年齢    | 平均 88.8歳 | 最低 85歳 | 最高 93歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 協力医療機関名 | ゆりが原内科、箱木歯科、北星内科、近医協札幌北区病院 |
|---------|----------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の閑静な住宅地に、旧住宅を改修して平成14年に開設された1ユニットの小規模グループホームであるが、利用者のケアサービスに真摯に取り組む代表者及び管理者(ホーム長)の姿勢が、スタッフと利用者の信頼関係を築き、家庭的雰囲気のあるホームになっている。さらに、開設当初からの理念である「地域町内会等での交流の場拡大と生きがいの支援」を貫き、開設後5年間の経過の中で、役員就任など町内会への協力や行事への積極的参加をすすめている。その結果、七夕行事などで近所の子供たちが寄ってくれたり、認知症に関する相談者も多い。また、災害時の避難場所を隣家と提供し合うなど地域との関わりも密接に保たれている。

## 【重点項目への取組状況】

|       |   |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)  |
|       | 前回の評価で、家族や利用に言葉による説明はされていたが記述がなかった利用者の権利について、契約書を修正して明確に示されている。   |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)  |
|       | 自己評価には、全スタッフが参加し、その結果について日々のミーティングや、毎月の全体会議において、どうあるべきか問題点の内容を話し合い、今後の改善すべき案に積極的に取り組んでいる。問題が多いときは改善シートも活用の用意がなされている。  |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)   |
|       | 運営推進会議は、昨年9月より2ヶ月毎に各方面からの参加者を得て開催されており、ホーム運営状況や防災対策、感染症対策など地域に有益な内容の報告と意見交換がなされている。この会議開催によって地域におけるホームへの理解が深まり、連携体制が強化されつつある。また、協議会参加者の意見、要望を把握し、これらをホーム運営に反映さすべく努めている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)   |
|       | 家族のホーム来訪時や年2回の家族会開催の際に、利用者の暮らしぶりをビデオなどで伝え、家族からの意見や要望を聞いている。訪問の少ない家族には電話やお便りで、できるだけ家族との接触を図るようにしており、家族からの要望等をケアサービスに反映させている。   |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
|       | ホーム開設後、町内会役員の就任、行事への積極的参加、「ホーム便り」の町内会配布など代表者及び管理者の努力により地域との交流が進んでおり、子供たちが遊びに来たり、災害時の避難場所も隣家から提供を受けるなど地域との連携がとられている。   |

## 2. 評価結果（詳細）

| 外部評価                         | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>           |      |   |  |                      |  |
| <b>1. 理念と共有</b>              |      |   |  |                      |  |
| 1                            | 1    | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている    | グループホーム開設当初から、ホームの運営理念の中に「地域との交流と生きがいの支援」を掲げており、地域との関わりを重視した独自の理念となっている。               |                      |  |
| 2                            | 2    | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                       | 運営理念は、スタッフ採用時以外に毎月の全体会議やミーティング時に確認しながら、共有の理念としてケアサービスに活かしている。                          | ○                    | 理念はホーム運営上、最も大切な基本概念なので、新旧を問わずスタッフ全員が常に理念を意識しながらケアサービスに反映させるよう、今後もミーティング等を通して理念共有の努力を継続して欲しい。 |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |      |   |  |                      |  |
| 3                            | 5    | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ホーム開設後5年の経過の中で、町内会の役員就任、町内会行事への積極的参加、ホーム便りの配布など広報活動の推進により地域の理解度と交流が深まっている。             |                      |  |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |      |   |  |                      |  |
| 4                            | 7    | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる   | 自己評価および外部評価の意義をスタッフ全員が理解し、全員の意見のもとにまとめられている。さらに、自己評価の内容については改善計画シートを作成し、毎月の会議で検討されている。 |                      |  |

札幌市 グループホーム チロリン村

| 外部評価                   | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                  |
|------------------------|------|--|--|----------------------|--|
| 5                      | 8    | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている              | 昨年9月より2ヶ月毎に包括支援センタースタッフを含むメンバーで運営推進会議が開催され、ホーム運営状況、防災や感染症対策など種々のテーマについて説明や検討がなされている。                       |                      |  |
| 6                      | 9    | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | ホームの概要や運営状況について区役所担当課に説明し、相談や指導を受けている。また、キャラバンメイト（管理者が講師担当）へも協力している。                                       | ○                    | 行政との連携に向けての努力は何えるが、さらに行政職員のホーム来訪や市の委託事業発生の場合に積極的に受託するなどの努力継続が望ましい。 |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |      |  |  |                      |  |
| 7                      | 14   | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 当ホームは家族の来訪が多く、その都度入居者の暮らしぶりなどを伝え、家族からの意見や要望も聞いている。一部の訪問回数の少ない家族には電話やお手紙(写真)、「ホーム便り」などで報告している。              |                      |  |
| 8                      | 15   | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 家族訪問時の意見交換以外に家族会を年2回開催し、ビデオで利用者の暮らしぶりを見せたり、家族からの意見要望も聞きだしながら、ケアサービスに反映させている。                               |                      |  |
| 9                      | 18   | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | スタッフの移動は少なく、長年勤務者が多いため特段の問題はないが、スタッフの移動が発生しても利用者が混乱しないように日頃からヘルパー研修生を受け入れるなど、外部からの見慣れない顔でもダメージがないよう配慮している。 |                      |  |

| 外部評価                             | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|----------------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| <b>5. 人材の育成と支援</b>               |      |  |  |                      |   |
| 10                               | 19   | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                | ミーティングや全体会議は内部研修を兼ねているが、外部研修も年間10回程度を計画しており、スタッフの希望により研修会へ参加し報告書を作成し、日常のケアサービスに活かすよう努めている。研修会に参加し資格取得しリーダーとして活躍しており、今後とも継続して取り組んで行くよう計画している。 |                      |   |
| 11                               | 20   | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      | ホームは、グループホーム協議会へ加盟し、同協議会の研修等へ積極的に参加している。さらに管理者は札幌市北区管理者連絡会の役員を引き受け、諸活動に取り組んでいる。  | ○                    | 同業者との交流は、協議会や連絡会を通してが主のため、今後はほかの介護サービス施設を含めて個別施設との交流（施設見学や実習など）により施設運営やスタッフのスキルアップに役立てることが望まれる。 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>     |      |  |  |                      |   |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |      |  |  |                      |   |
| 12                               | 26   | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 今年からショートスティを可能としたが、さらに、利用希望者の自宅訪問やホームでの体験利用などにより、希望者が施設やスタッフに馴染めるように配慮し、信頼関係を築くようにしている。  |                      |   |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |      |  |  |                      |   |
| 13                               | 27   | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | スタッフは、入居者が人生の先輩であるとの意識のもとに本人の立場や思いを大事にしながら一緒に作業を行なうなどともに生活する家族的雰囲気を大事にしている。  |                      |   |

| 外部評価                                  | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>    |      |   |  |                      |                                   |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                    |      |   |  |                      |                                   |
| 14                                    | 33   | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 日常生活の関わりの中で、入居者のその時々<br>の状態変化に気をつけながら一人ひとりの思<br>いや意向を観察記録として整理し、本人本位<br>の生活支援に努めている。       |                      |                                   |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |      |   |  |                      |                                   |
| 15                                    | 36   | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケ<br>アのあり方について、本人、家族、必要<br>な関係者と話し合い、それぞれの意見や<br>アイデアを反映した介護計画を作成し<br>ている     | 介護計画は、担当者が観察記録して主任会議<br>で検討し、本人の思いや家族の意向も取り入<br>れながら、管理者が作成している。                           |                      |                                   |
| 16                                    | 37   | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行<br>うとともに、見直し以前に対応できない変<br>化が生じた場合は、本人、家族、必要な<br>関係者と話し合い、現状に即した新たな<br>計画を作成している | 介護計画は原則として3ヵ月毎に定期見直し<br>を行なっているが、利用者の状況に応じて本<br>人の要望も取り入れながら家族とも相談し随<br>時見直しを行なっている。       |                      |                                   |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>              |      |   |  |                      |                                   |
| 17                                    | 39   | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々<br>の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔<br>軟な支援をしている  | 利用者の通院やショッピングなどの送迎、<br>ショートステイの受け入れ、利用希望者の体<br>験利用、来訪相談者への対応、地域への広報<br>活動など多種多様の支援を実施している。 |                      |                                   |

| 外部評価                               | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |      |   |   |                      |   |
| 18                                 | 43   | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している             | 現在、利用者は定期的に往診のして頂ける内科をメイン医療機関とし、ほかの診療科目については、この医療機関を通して紹介を得ながら通院、入院をしている。                       |                      |   |
| 19                                 | 47   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームでは利用者の重度化に対応した指針や同意書も作成しスタッフの勉強会においても検討課題として取り上げている。終末期についても指針は作成されているが、具体的な対応策は今後の課題となっている。 | ○                    | 重度化や終末期の指針は作成されているが、特に後者に関して具体的取り組み方(医療機関との相談、家族への対応など)が検討中なので、今後も関係者と協議しながら詰めて欲しい。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |      |   |   |                      |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |      |   |   |                      |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |      |   |   |                      |   |
| 20                                 | 50   | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | ミーティングや全体会議においてマニュアルにもとづきながらプライバシー保護の重要性を確認し、共有しながら個人情報の取り扱いに注意している。                            | ○                    | 利用者への面会簿は一覧表となって、訪問者は誰でも見れる状態にあるので、オープンでない様式に変更することが望まれる。                           |
| 21                                 | 52   | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | スタッフは、ホームや自分の都合でケアサービスを行なうのではなく、利用者一人ひとりの体調や思いなどを尊重し、柔軟な対応がなされている。                              |                      |   |

| 外部<br>評価                            | 自己<br>評価 | 項 目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組みを期<br>待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----------|---|--|--------------------------|-----------------------------------|
| <b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |          |   |  |                          |                                   |
| 22                                  | 54       | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 利用者の能力に応じて食事準備や後片付けをスタッフとともに行ない、1週間ごとに希望を聞きながらお楽しみメニューの設定も行なって食事を美味しく楽しんで食べれるよう支援している。       |                          |                                   |
| 23                                  | 57       | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴時間は、利用者の体調を勘案しながら原則として土日を除く毎日の午後を設定している。そして、季節に応じてシャワー、半身浴、足浴などバラエティーに富んだ入浴を楽しんでいる。        |                          |                                   |
| <b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |          |   |  |                          |                                   |
| 24                                  | 59       | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の身体状況、趣味などを考慮しながら張りのある生活支援を目指して種々同活動に取り組んでおり、ホーム内の各種役割のほか手芸などの楽しみ、畑作業、外出など日常的に進めている。      |                          |                                   |
| 25                                  | 61       | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 利用者は、日常的に散歩、ショッピング、家族と外食町内会行事への参加などをしており、冬季間は大型商業施設へ行って雰囲気を楽しむなどの支援を行なっている。                  |                          |                                   |
| <b>(4)安心と安全を支える支援</b>               |          |   |  |                          |                                   |
| 26                                  | 66       | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | スタッフは、鍵をかけないケアの必要性を理解しており、日中は正面玄関及びベランダは鍵をかけていない。出入りは自由であるが、常にスタッフが見守り、一人で出掛けることのないよう注意している。 |                          |                                   |

札幌市 グループホーム チロリン村

| 外部評価                             | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 27                               | 71   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                | ホームは消防署による避難訓練や救命救急訓練を実施しており、災害時の避難場所は隣家の協力を得て確保されている。また、災害時に裸足で外に出ることに慣れるためベランダから裸足で庭の芝生に出るよう習慣づけている。 |                      |                                   |
| <b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b> |      |   |  |                      |                                   |
| 28                               | 77   | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 利用者の水分や食事の摂取量を記録し、食事カロリーも保健センターの指導を受けながらメニュー変更時に計算を行なっている。入居者の身体状況に応じてカロリーや水分補給も調整している。                |                      |                                   |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>   |      |   |  |                      |                                   |
| <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>            |      |   |  |                      |                                   |
| 29                               | 81   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースの居間・食堂は明るく、写真や家庭的装飾品で違和感のない親しみのある雰囲気になっている。浴室やトイレも使用しやすいよう配慮され、臭気もなく清潔感が維持されている。                 |                      |                                   |
| 30                               | 83   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 居室はカーテン以外は入居者の使い慣れた家具、調度品の持込が自由である。ホームは住宅改造型であるが窓は大きくて明るく、集中暖房により快適な温度管理のもと、居心地よく過ごしている。               |                      |                                   |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。